

古墳時代の首長

前・中期古墳の複数埋葬をめぐる

Chiefs in the Kofun (Tumulus) Period :
Consideration of Multiple Burials in the Early to Middle Kofun Period

広瀬和雄

HIROSE Kazuo

はじめに

- ① 研究史と問題の所在
- ② 前・中期古墳複数埋葬の事例
- ③ 複数埋葬に関する二、三の問題
- ④ 古墳時代首長の特性

おわりに

【論文要旨】

「前方後円墳などの首長墓には一人の首長が葬られた」が、さほどの根拠もなくイメージされ、それが古墳時代社会の首長像と相即不離の関係をつくっている。しかし、首長墓と言いながらも、前・中期古墳の墳頂部に2～4体ほどが埋葬された事例が、むしろ一般的である。ところが、そうした複数の埋葬があった場合でも、「中心埋葬」と「従属埋葬」とみしてしまう傾向が強い。そこに問題の所在がある。

多数の事例を検討した結果、複数埋葬された被葬者相互には、差異性よりも同質性のほうが目立つし、格差の大きいものよりもそうでないもののほうが卓越するという状況が看とれる。複数埋葬には「主一従」というほど決定的な格差が認めがたくて、ほぼ同質同格としかいいようがないケースのほうがむしろ優位なのである。したがって、墳頂部に複数埋葬された1人の被葬者を首長とよぶのであれば、ほかの被葬者も首長とよばざるを得ないのが実態である。

前方後円墳など1基の首長墓の背景には、さまざまな格差をもちながら密接不分離な関係を結んでいた2～4人の首長—深さ1m内外の中小河川流域を領域としていて、自給できない物資の獲得や婚姻などをめぐって、他の首長と物的かつ人的な交通網を結ぶ一が、限られた地域には共存していた。つまり、複数の首長が政治的なまとまりをつくっていたが、そのような首長層が中央・地方にかぎらず、古墳時代前・中期の政治的結合の基礎単位であった。そのなかで共立された大首長が、地域の首長層を代表して中央—地方の政治秩序を担った。そのときの首長同士の階層的な関係や親縁度の高低などが、多彩な複数埋葬のありかたに表出していた、というのが本稿の論点である。

【キーワード】 首長墓、複数埋葬、中心埋葬、従属埋葬、首長ネットワーク